教点連ニュース　平成 23 年度 第 3 号　No.18

平成 23 年 12 月 22 日

【平成 23 年度第 2 回セミナーのご報告】

11 月 23 日（水）に日本ライトハウス情報文化センターにおいて、今年度の第２回セミナーが開催されました。

まずは、このセミナーにご協力いただきました発表者の皆様を初め、当日参加してくださった皆様に感謝申し上げます。

前半では、大阪府豊中市立蛍池小学校での A さんの学習支援のケースについて、担任の大上直子氏と、支援学級担任の蓮井庸介氏、当会監事で豊中市子供支援員の三上洋氏より現場の様子を発表いただいた後、巡回指導で携わっておられる大阪市立視覚特別支援学校の辻岡均氏より具体的な点字指導や触察指導などについてご報告いただきました。

小学校に入学する前に学校が行なった支援に向けての準備、入学後に行なっているお子さんへの点字指導や触察力のスキル、感覚指導などの報告の他、各科目の授業風景や、校外活動の様子などを写真資料を用いてお話いただき、非常に具体的で分かりやすかったです。

今回の発表から、日ごろの視覚障害のお子さんが学習されている様子が伺えただけでなく、他の自治体でインクルーシブ教育を受けているお子さんに関わっている方にも大変参考になったと思います。質疑応答の場でも、「点字学習はどのように行なえばいいでしょうか」、「体育の時間に何か工夫していることはありますか」といったような指導方法に関する質問が多くありました。

後半は、当会理事で筑波技術大学の長岡英司氏より、ＤＶＤ『視覚障害学生の入学が決まったら』を示しながら、学生にとっての「点字の有用性」についてご講演いただきました。日ごろボランティアの方を初めとする支援者の方は一生懸命に点字教科書を製作することに没頭されていますが、今改めて点字の存在意義を見つめなおす貴重な機会になったと思います。また、使用文字としての点字を習得することがいかに重要かをお話いただきました。

当日は関西地域だけでなく遠方からもお越しいただき、参加者 65 名の中、盛会に終わりました。ほんとうにありがとうございました。

【平成 23 年度第 3 回理事会記録】

日時：平成 23 年 11 月 23 日（水）11 時～12 時半
場所：日本ライトハウス情報文化センター
参加者：田中、池村、加藤、込山、鈴、高橋（実）、長岡、野々村、古谷、松崎
　　三上、牟田口、奥野、松本
内容：

1.「教科書点訳のてびき」の今後のスケジュールについて

助成金の申し込み申請を行なってきたが結果に結びつかず、会員に情報を求めていたところ、あるグループから寄付をいただけることになり、製作に向けて動き出した。完成時期は 2013 年 3 月末を目指す。

今後については、まず加藤理事がてびき書のガイドラインを作成し、それを踏まえ当会の会員に向けて「教科書点訳のてびき」で取り上げてほしい内容や意見を ML で募集することとなった。執筆者にもそのガイドラインを添えて協力依頼をする。

執筆者については、都市部に限らず地方の盲学校等で視覚障害の教育に携わっている教員に依頼できないかどうか情報収集をし、人選していくことになった。

2. 教科書点訳の依頼があった場合の点訳者の決定について

教育委員会などから教科書点訳の相談があった場合、会員の ML で点訳者を募集している。その際どのように点訳グループを決定するか。

１グループからの申し出であれば、そのグループに依頼する。複数のグループから声が挙がった場合は、各グループのこれまでの実績を考慮して事務局が判断し連絡する。

【教点連 加盟団体のご紹介】

収穫の秋にネパールを訪問して

東京ヘレン・ケラー協会理事・海外盲人交流事業事務局長／福山博

「インドでも見たことがないのに、カトマンズでは盲人が白杖をついて堂々と歩いており、本当にびっくり！」。ダッカに長年駐在していたある国際 NGO 職員の声です。バングラデシュもアジア最貧国の一つだが、「何によらずネパールよりまし」と考えているお国がらなので、それに影響されての発言です。

11 月 17～29 日の日程でネパールを訪問しました。今年は降雨が続いたため、遅れた稲刈りの真っ最中でした。私は支援する視覚障害児・生徒に会うのが仕事ですが、予期しない場所でも何度か白杖をつく姿を見かけました。ネパール盲人福祉協会（NAWB）職員の案内で、カトマンズ盆地内の古都バクタプルの世界遺産「ダルバール広場」を訪れたときもそうです。いかにもキャリアウーマン風のため通勤途上と踏んで、並んで歩きながら名乗ると、「点字の教科書を作っていただき、お陰様で今は教員をやっています」と、感謝の言葉が帰ってきました。

彼女の名前は、Mrs. Shabitri Karki Tiwari（40 歳）。ダルバール広場に隣接する NCO（Nepal Children's Organization）が経営する小学校の教師。NCO は 1964 年に、孤児と貧困家庭の児童の育児と教育を目的に設立され、現在ネパール全土で 12 カ所の孤児院を経営しています。NCO の Bhimphedi Children's Home には、NAWB の元職員の遺児が１人、2005 年からお世話になっているので、2006 年から私も毎年遺児に会いに訪れており、その奇縁に驚きました。

Tiwari 先生のご主人も全盲で、ダルバール広場の反対側にある高校の教師で、中学生と高校生の私立校へ通う２人の子宝にもめぐまれ、先生は幸せ一杯の笑顔でした。東京大学で博士号を取り、そのまま同大で日本学術振興会の研究員として働いている全盲のネパール人がいると言ったら、「Kamal Lamichhane さんでしょう。私たちの仲間です。先日も Skype（インターネット電話サービス）で話をしました」と微笑みました。

1985 年 12 月、東京ヘレン・ケラー協会（当協会）は、当時東京都心身障害者センターの職員であった田中徹二氏を団長に、ネパール盲人福祉調査団をカトマンズに派遣。同調査団は、同年に設立された NAWB と出会い、ネパールにおける視覚障害者の課題は点字教科書の発行であると提言。翌年、当協会は NAWB の P. R. パント教育課長を点字出版研修のために日本に招聘。同年、パント氏の帰国に合わせて、点字製版・印刷設備１式を NAWB に寄贈。その後、順次点字の国定教科書の発行を行い、現在第１～10 学年課程の点字教科書を発行して、ネパール全土の統合教育校等に配布しています。

25 年前、視覚障害を持つ教師は１人でしたが、現在は 394 人おり、その他に高級官僚２人を含む６人の公務員と NGO 等で働く８人の視覚障害者もいます。本年までにネパールで SLC（※）に合格した視覚障害者は 921 人ですが、現在就学中の視覚障害児は約 2,000 人おりますので、今後裾野がさらに広がるだろうと期待されております。

全国でただ１種類の国定教科書しかないので、全部製版してしまうと、全国の盲児が使う教科書が、すべて点字化できます。当協会が支援して NAWB に点字出版所を作ったことが視覚障害者の向上心に火をつけ、わが国でも考えられないような成果をあげたのだと思われ、収穫の秋にある種の感慨にひたりました。

※ SLC（School Leaving Certification）：小学校１年から 10 年課程の学校教育を修了するための国家試験

発行日：平成23年12月22日
発行所：NPO法人全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会
ホームページ：http://kyotenren.web.fc2.com/
発行人：田中徹二
連絡先：（社福）日本点字図書館　担当：田中・松本
〒169－8586 新宿区高田馬場1-23-4
Tel：(03)3209－0241　Fax：(03)3204-5641
E-mail：matsumotom@nittento.or.jp
振込口座番号：0180－7－262151